

豊田おいでんまつりへの提言

～豊田おいでんまつりの魅力に磨きをかける～



平成19年12月

豊田おいでんまつり懇談会

目次

はじめに	1
1. 市民にとってのまつりの意義	2
2. なぜ、まつりを見直すのか	3
3. これからのまつりのあり方	5
4. どのようにして実現するのか	8
■提言 1 参加のしやすさと魅（見）せる踊りを両立したまつり	9
■提言 2 日本一質の高い花火が見られるまつり	11
■提言 3 市民・事業者・行政の共働によるまつり	12
■提言 4 モラルの高い安全・安心なまつり	14
■提言 5 いつまでも継承され、市民の自慢となるまつり	16
おわりに	17
【資料】	
1. 諮問書	18
2. 中間答申書	19
3. 答申	21
4. 豊田おいでんまつり懇談会委員名簿	22
5. 豊田おいでんまつり懇談会設置要綱	23
6. 豊田おいでんまつり懇談会の公開及び会議録の公開に関する要綱	24
7. 豊田おいでんまつり懇談会検討経過	26
8. 豊田おいでんまつりのあしあと	28
9. 第36回豊田おいでんまつり経済波及効果試算報告書	34
10. 第39回豊田おいでんまつり試行概要	37
11. 第39回豊田おいでんまつりアンケート結果	41

はじめに

『ふるさと豊田の文化を創造し、豊かな人間性を培い、明日のエネルギーを蓄える楽しいカーニバルを市民の手で創造する。もって、市民の心の連帯と活力ある豊かなまち豊田市を築こうとするものである。』

豊田おいでんまつりは、多様な意義をその開催趣旨に定め、平成元年からスタイルを一新しました。

まつりの核である総踊りへの参加は、180連、約1万人の踊り連でスタートしましたが、平成18年には876連、約3万5千人に達しました。そして、まつりは、開催趣旨に沿って誰でも参加でき、自由に楽しく、市民の連帯を深め、活力ある豊田市をアピールする名物まつりへと大きく成長しました。

しかし、時代の変化に伴う踊る人、観客、市民のニーズの多様化やまつりの大規模化に伴う課題の発生が、安全・安心でより質の高いまつりへの転換を求める世論を形成しました。

豊田おいでんまつり懇談会は、まつりの魅力に更に磨きをかけるため、第39回豊田おいでんまつりの実施にあたり中間答申を行い、これに基づくまつりを試行していただき、その結果を踏まえて、課題の解決方法について検討し、今後のまつりのあるべき姿を、ここに提言書として取りまとめました。

なお、懇談会設置の趣旨から、第40回以降の長期的な展望にたった、「まつりのあるべき姿」を検討の主題とし、各論に相当する細部の課題については、豊田おいでんまつり実行委員会での検討に委ねるものとなりました。

平成19年12月
豊田おいでんまつり懇談会
会長 河木照雄

市民にとってのまつりの意義

人の営みの中でまつりが果たしてきたものは何か。
40年のまつりのあしあとをたどり、市民とまつり、地域とまつりのかかわりを解く。



1. 市民にとってのまつりの意義

今後の豊田おいでんまつりのあり方を検討するにあたり、「市民にとってのまつりの意義」を改めて確認します。

まつりのあるべき姿とは、何のためのまつりかを市民が共有しながら、まつりの存在意義とその効用を最も効果的に達成できる姿です。

人々のまつりへの期待、まつりを通じて得ようとするものは多様であり自由です。しかし、前身の「豊田まつり」の20年、スタイルを一新した「豊田おいでんまつり」の19年を通じて、このまつりに求められた市民まつりとしての存在意義は、以下の3点に要約されます。そして、これは今後も引き継がれるべき、まつりのテーマと言えます。

(資料「豊田おいでんまつりのあしあと」参照)

■ (写真) 第39回豊田おいでんまつりより



1. 市民が楽しみ元気になるまつり

非日常的な空間の中で、感動や楽しみを通じて活力を取り戻し、明日からの生活や労働にいそしむ、その転機の間として存在してきたまつり本来の効用を果たします。

2. 市民の連帯意識とまちづくりへの貢献

市民同士のつながりや、自分たちの住むまちを愛する心が希薄になりがちなか中、まつりを通じて、連帯意識やふるさと意識を高め、また地域活性化の起爆剤となってまちづくりに貢献します。

3. 都市の魅力の発信と市民の誇り

「クルマのまち」は、日本一元気で活力あふれるまちであることを、まつりを通じて発信します。そして、市民が誇れる有名なまつりは、都市の魅力のひとつとして多くの人々を惹きつけます。

なぜ、まつりを見直すのか

まつり見直し世論の根にあるものは何か。どこで何が起こっていたのか、まつりの更なる魅力づくりに向けた課題を浮き彫りにする。



2. なぜ、まつりを見直すのか（問題点と課題）

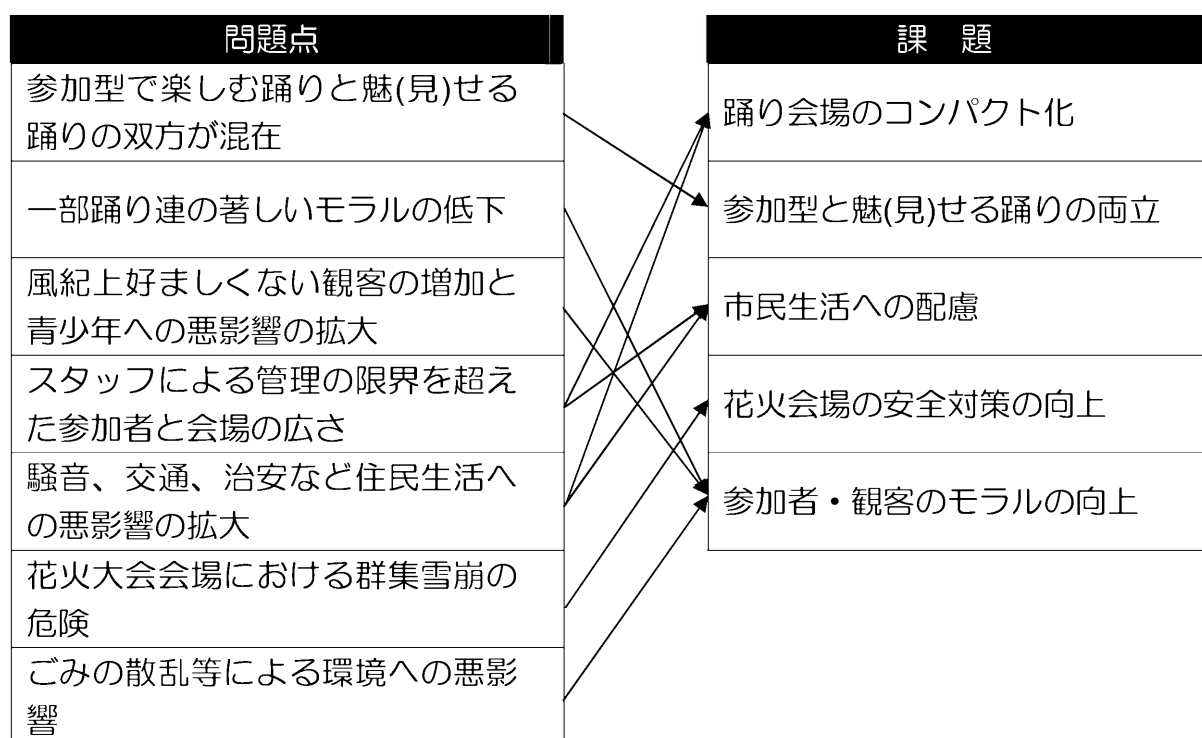
（1）豊田おいでんまつりが果たしてきた効用

平成元年にスタイルを一新したまつりは、当初180連、約1万人の踊り連が、平成18年には876連、約3万5千人に達し、誰でも参加でき、自由で楽しく、そしてエネルギーを発散できる豊田市の名物まつりとして市民に根付いてきました。まつりの果たしてきた主な効用を以下に示します。

- ①エネルギーの発散・蘇生のもととして多くの市民に楽しみを与えてきました。
- ②踊り連としての参加を通じて、地域・職場・学校などにおける市民の連帯意識やふるさと意識を醸成してきました。
- ③元気で活力あるまちの象徴として、豊田市の魅力をアピールしてきました。
- ④質の高い全国屈指の花火大会として、各種メディアでランキングされるようになりました。
- ⑤まつりの開催により、1回あたり約16.3億円、約150人の雇用という経済効果をもたらしてきました。（資料「第36回豊田おいでんまつり経済波及効果試算報告書」より）

（2）第38回豊田おいでんまつりで顕在化した課題

第38回豊田おいでんまつりでは、総踊り終了後に観客が暴れ、逮捕者（市外在住者）が出るなど、モラルの低下をはじめとする多くの問題点が生じ、課題が顕在化しました。生じた問題点と対応が求められる課題を以下に示します。



■モラルの低下、会場混雑の現状（第38回豊田おいでんまつりより）



飲酒しながら騒ぐ踊り連



特攻服衣装で踊らない踊り連



下着まがいの衣装で参加する踊り連



花火大会で混雑する駅前通り

これからのまつりのあり方

多くの人々に愛されながら巨大になり過ぎたまつりの進むべき道は。大胆な試みを通じて目指すべきまつりの姿を探る。



3. これからのまつりのあり方

(1) 第39回の試行による評価

第38回豊田おいでんまつりで顕在化したまつりの課題に早急に対応するため、「中間答申」を行い、第39回において試行実施していただきました。

1) 中間答申の要旨（資料「中間答申書」参照）

- ①総踊り会場の縮小
- ②予選会の実施
- ③総踊りをパレード形式に変更
- ④総踊り開催日の短縮と開催時間の変更
- ⑤花火大会の警備員配置の見直し

2) 第39回の試行概要（資料「第39回豊田おいでんまつり試行概要」参照）

- ①参加型の楽しむ「マイタウンおいでん」と、魅(見)せる「おいでんファイナル」に分割
- ②「マイタウンおいでん」を予選会として位置づけ
- ③「おいでんファイナル」会場を豊田市駅から豊田スタジアムの直線コースで実施
- ④「おいでんファイナル」をパレード形式で実施
- ⑤「おいでんファイナル」を1日のみとし、昼夜2部制で実施
- ⑥「おいでんファイナル」の終了時間を繰り上げ
- ⑦「おいでんファイナル」の飲酒規制、給水所の設置
- ⑧「リトルおいでん」を定置演技で実施
- ⑨「花火大会」の観客動線の警備員を増強し、会場アナウンスを放送
- ⑩まつり全体を通じて「おいでんクリーンキャンペーン」を展開

3) 試行結果と評価（資料「第39回豊田おいでんまつりアンケート結果」参照）

マイタウンおいでん

〔効果〕

- ①それぞれの地域において、自治区や商店街等が中心となったマイタウンおいでん運営委員会が立ち上がり、地域主体で個性あふれるマイタウンおいでんが実施できました。
- ②ルール徹底とローカルさゆえに悪質な踊り連の参加が抑制され、衣装等の問題もなく、完成度や協調性など高いレベルの踊りが披露されました。

〔問題〕

- ①地域主体のマイタウンおいでんを、今後の「参加して楽しむおいでんまつり」の中心として位置づけましたが、ファイナル出場をかけた選考会の様相が強くなってしまいました。
- ②初めてイベントを運営する団体もあり、運営レベルにバラつきがありました。

- ③これまでの実績や地理的な条件から、申し込みの多い会場と少ない会場がありました。また、参加者総数は8,561人で第38回総踊り参加者数を大幅に下回りました。
- ④7月14日(土)は、台風4号の影響を受け、8会場中4会場が中止となりました。中止会場ではファイナル出場を抽選で決定したため、ファイナル出場を目標に頑張ってきた踊り連には、理解が得られませんでした。また、雨天時の対応が十分決められていませんでした。

おいでんファイナル

【効果】

- ①各マイタウンおいでんから選抜されたこともあり、どの踊り連も真剣かつ整然と踊り、衣装等の問題もなく、完成度や協調性などとてもレベルの高い踊りが披露されました。
- ②踊り連の飲酒を禁止したため、飲酒に伴うトラブル等を防止することができました。また、例年多くあった急性アルコール中毒での救急搬送はありませんでした。
- ③リトルおいでんは、移動しない定置演技とし、保護者等のコース内への立ち入りを制限したことにより、園児だけの可愛らしい踊りを多くの市民に楽しんでいただくことができました。

【問題】

- ①第1部の踊り会場では、暑さで体調不良を起こす人が多くいました。
- ②光化学スモッグ予報等への対応方針の参加者への周知が不十分でした。
- ③踊りのパレードに疎密が生じ、踊り連への配置方法に課題を残しました。
- ④5会場に分割したことにより、踊り連の移動距離が長くなり、負担がかかりました。
- ⑤第1部の豊田大橋方面は観客が少なく、賑わいに欠けました。
- ⑥ペDESTリアンデッキは、表彰式の会場としては狭すぎました。
- ⑦アンケートの結果では、中心市街地在住者には評価されましたが、踊り連には「踊る時間が短い」などの理由で良い評価が得られませんでした。
- ⑧管理しやすい直線会場にしましたが、交通規制区域が広がり、多額の警備費がかかりました。

花火大会

【効果】

- ①オープニングを簡素化することで終了時間を10分早めることができました。
- ②防護網の設置と事前アナウンス、消防団員の協力により、ナイアガラ大瀑布に飛び込む危険行為をなくすことができました。
- ③警備員の充実により、けが人もなく、スムーズな観客の移動を誘導できました。

【問題】

- ①花火大会一週間前の白浜公園内自由席の場所取りについて、開始時の混乱を防

止し、安全を確保するために警備員等を配置しましたが、問題が払拭できませんでした。

②防護網の設置や観客誘導のための警備員の増強により、多額の費用がかかりました。

③風向きの影響で、豊田スタジアム内に大量の花火ガラが散乱し、迷惑をかけました。

(2) 試行結果を踏まえた今後のまつりのあり方

第38回までの豊田おいでんまつりが担ってきた効用、第39回の試行を通じて得られた効果及び問題点から、今後のまつりのあるべき姿、すなわち、質の向上を図り、更に魅力あるまつりとするためのテーマを導きました。



新たな開催趣旨

『市民が楽しみ、感動し、訪れる人を温かく迎えるふるさとのまつりを共働の力で育てます。そして、活力ある豊かな観光交流都市・豊田市のまちづくりに貢献します。』

まつりの開催テーマ

『笑顔になれる 笑顔に逢える ふるさとのまつり』

- ①参加のしやすさと魅(見)せる踊りを両立したまつり
- ②日本一質の高い花火が見られるまつり
- ③市民・事業者・行政の共働によるまつり
- ④モラルの高い安全・安心なまつり
- ⑤いつまでも継承され、市民の自慢となるまつり



どのようにして実現するのか

目指すまつりの将来像と現実との隔たりは小さくないが、共働の力をもってすれば、たやすかろう。市民が自慢できるまつりへの5つの提言



4. どのようにして実現するのか

質を向上させ、さらに魅力あるおいでんまつりを育てていくには、今後どのようなことに重点を置いて取り組むべきか、まつりの方向性を5つのテーマに沿って提言します。

提言1

参加のしやすさと魅(見)せる踊りを両立したまつり

- (1) 参加型の楽しい地域のまつり
- (2) 観客を魅了する中心市街地のまつり
- (3) 適切な時期と時間に開催されるまつり

提言2

日本一質の高い花火が見られるまつり

- (1) 更なる質の向上を目指した花火大会
- (2) 安全で快適な花火大会
- (3) 適切な時期に開催される花火大会

提言3

市民・事業者・行政の共働によるまつり

- (1) 市民が参画するまつり
- (2) 機動性のある実施母体によるまつり
- (3) まちづくりに貢献できるまつり

提言4

モラルの高い安全・安心なまつり

- (1) 安全・安心なまつり
- (2) モラルが高く自己責任あるまつり
- (3) 環境にやさしいまつり

提言5

いつまでも継承され、市民の自慢となるまつり

- (1) 応援したくなるまつり
- (2) 子どもたちに受け継がれていくまつり
- (3) 市民の自慢となるまつり

(1) 参加型の楽しい地域のまつり

①全市域への拡大

平成17年の合併により市域が大きく拡大しました。おいでんまつりを地域に広げ、より身近な市民まつりとするにより、まつりを通じた一体感の醸成が期待されます。



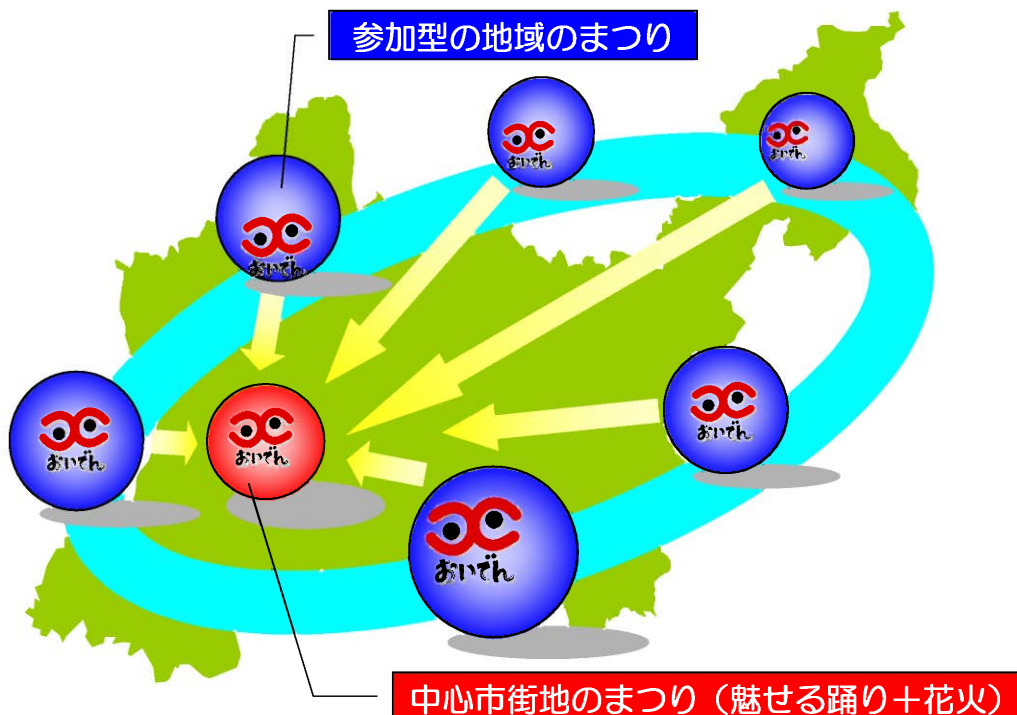
②市民の手づくりによるまつり

各地域に、実施主体となる組織を市民の手で作り、特色ある地域のまつりを開催します。そして、実施主体は地域のみ限定せず、学校団体や事業者など責任を持って運営にあたることのできる、意欲ある団体を広く募ることが求められます。

③誰もが楽しめ、地域色のあるまつり

誰もが楽しめる参加型のおいでんまつりを継承し、地域の特色を盛り込んだまつりとして成熟していくことが期待されます。そして、それぞれの取り組みを報告しあう勉強会を設けるなど、互いに魅力を高めあうことが求められます。また、雨天の対応など不測の事態への備えも必要です。

新たなおいでんまつりの体系イメージ



(2) 観客を魅了する中心市街地のまつり

①活力ある豊田市を象徴するまつり

各地域で気軽に楽しめる、参加型のおいでんまつりを開催することにより、中心市街地でのまつりを、新豊田市のシンボルとしての役割を担うまつりに特化することができます。おいでんまつりの総決算となる、中心市街地でのまつりは、市外からの注目も高く、活力ある豊田市を象徴するまつりとして育てなければなりません。



②魅(見)せるまつり

中心市街地のまつりは、地域のまつりで選抜された踊り連の披露の場となります。個性的でエネルギー溢れる踊りや統一の美などで魅せるまつりとするのが求められ、そのために必要な演出にも配慮が必要です。そして、観光客の誘致や商業振興にも貢献できるまつりにしなければなりません。

③管理の行き届くコンパクトな会場

魅(見)せるまつりとしての十分な規模が求められる一方、管理の行き届くコンパクトな会場設定が必要となります。また、地域活性化の起爆剤としてのまつりの効用にも配慮されなければなりません。会場は、社会資本の整備、まちづくりの発展に伴い、最も適切な位置や規模を地域住民や関係機関と十分協議して決定することが求められます。

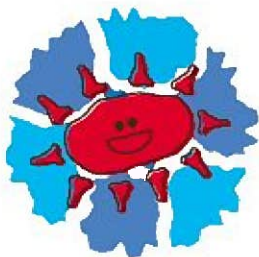
(3) 適切な時期と時間で開催されるまつり

①地域のまつりの開催時期と時間

参加型の地域のまつりは、既存の各地域の夏まつりなどとの関係や子どもの参加も視野に入れ、市民が最も参加しやすい時期と時間に配慮する必要があります。また、おいでんまつりとしてのまとまりや盛り上げの効果などから、1ヶ月程度の期間に集中して開催すべきです。

②中心市街地のまつりの開催時間

中心市街地のまつりの開催時間は、会場周辺の生活や子ども達の参加などに配慮する必要があります。また、昼間に開催する場合は、熱中症などの危険や光化学スモッグの発生などに対し十分な備えが必要です。できれば、夕方から夜間にかけての開催が望まれます。



(1) 更なる質の向上を目指した花火大会

おいでんまつり花火大会は、会場条件や打上げの内容において全国的に評価が高く、人気を集めています。これは、国内屈指の技術を持つ花火師で構成されていることによるものです。打上げ玉数や奇をてらった演出に頼ることなく、花火そのものの質の高さ、美しさで日本一の花火大会となるよう努めなければなりません。そして、この大会でしか見られない花火の魅力を広くPRするとともに、ショーとして楽しめる花火大会に必要な音響やアナウンスなどの演出の充実を図ることが求められます。



(2) 安全で快適な花火大会

①事故のない花火大会

事故のない安全な花火大会を行うには、製造・打上げ技術の高い煙火業者である、日本煙火芸術協会会員主体の構成を維持する必要があります。また、安全を最優先した会場設営、プログラム構成や、消防署や警察署などの関係機関との連携強化に努める必要があります。

②観覧環境の向上

花火大会の観覧については、招待者席、協賛者席と自由場所取りに分かれています。安全性や公平性の観点から、観覧席の販売についても検討し、安全で快適な観覧環境づくりが望まれます。

(3) 適切な時期に開催される花火大会

開催日は、全国各地の花火大会の日程や気象を考慮するとともに、おいでんまつりの全体日程の中で考える必要があります。地域のまつり、中心市街地のまつりで踊りを楽しみ、まつりのフィナーレを最も感動的に花火で演出する流れが理想的と考えられます。

提言3

市民・事業者・行政の共働によるまつり

(1) 市民が参画するまつり

①パートナーシップによるまつり

おいでんまつりの意義が、「市民が楽しみ元気になるまつり」、「市民の連帯意識とまちづくりへの貢献」、「都市の魅力の発信と市民の誇り」に至ることを確認しました。すなわち、市民・事業者・行政それぞれがまつりの効用を享受しています。これまでのように、行政が一方向的に与えるまつりではなく、今後は、市民・事業者・行政のパートナーシップ、すなわち ※共働 によるまつりを目指す必要があります。



※共働：市民と市がパートナーとして共に働き行動することで、協力して働く「協働」と区別する豊田市独自の概念。

②情報の共有と多様な意見の反映

毎年、多くの人々がおいでんまつりを待ち望んでいます。開催日程やルール、募集案内など、おいでんまつりに関する情報は、ホームページなどを通じてできるだけ早く、継続的に発信することが必要です。そして、アンケート調査などにより多様な意見の収集に努め、まつりの企画に反映することが求められます。



おいでんクリーンキャンペーン

出演者も観客も踊り・花火をもっと楽しむために

- ゴミを出さない工夫しましょう♪
- ゴミは分別してリサイクルしましょう♪
- 販売店容器回収にご協力ください♪

(2) 機動性のある実施母体によるまつり

①機動性のあるまつりの実施母体

おいでんまつりの実施母体となっている実行委員会や部会組織は、市民・事業者・行政の共働によるまつりを念頭に、できるだけコンパクトで機動性のある組織に改めていく必要があります。そして、新たな実施母体は、市民・団体・企業等「民」が主体性を持って参画できる仕組み、構成に移行し、真の市民まつりを目指すことが望まれます。

また、地域のおいでんまつりの運営組織とまつり全体を統括する実施母体との連携にも配慮する必要があります。

②おいでんサポーターの必要性

まつりが発展し、永く市民に愛されるためには、実施母体をサポートするサポーターやファンを募り、まつりのサポート体制を整えることが必要です。まつり業務のボランティアから企画への参画など、「創る参加者」の拡大が共働のまつりづくりに求められます。

(3) まちづくりに貢献できるまつり

①まちづくりや商業振興に結びつくまつり

おいでんまつりは、多くの参加者や観客が訪れ、まちづくりや商業振興と深く結びつきます。「豊田市中心市街地活性化基本計画」では、豊田市の軸となるスタジアムアベニュー（毘森公園～中央公園）を創造していくことを目標に掲げており、おいでんまつりの会場とも重なります。商業者を中心に、まつりを中心市街地の活性化に生かす取り組みが求められます。

また、こうした取り組みは、地域で開催されるおいでんまつりでも同様であり、市域全体でまつりを活用した商業活性化の取り組みが行われることにより、賑わいや活気のあるまちづくりが可能となります。



②観光振興に結びつくまつり

「豊田市観光交流基本計画」では、「都心地区のまちなか観光の魅力アップ」が重点プロジェクトの一つに位置づけられており、その施策として「おいでんまつりのステップアップ」が計画事業として掲げられています。また、地域のまつりも、合併地域を中心に観光振興に結びつける取り組みが期待されます。

(1) 安全・安心なまつり**①安全・安心対策の必要性**

おいでんまつりが誰にでも親しまれるまつりであるためには、「安全で安心なまつり」でなければなりません。何も起こらないことが当たり前であって、万一の事態に備えた万全な体制で行われるまつりでなければ、決して楽しむことはできません。

また、光化学スモッグを含む気象、食中毒などの情報を参加者や観客にタイムリーに提供するなど、事故の予防に努めることも必要です。

②自主警備を基本とした安全対策を構築

交通規制誘導や雑踏整理など、役割を明確にした警備スタッフの配置による、自主警備を基本とした警備体制を整えなければなりません。そのため主催者は、警察、警備会社、消防、医療機関などの関係機関との連携を図り、周到な警備計画を策定し的確で早い対応ができるようにする必要があります。

**(2) モラルが高く自己責任あるまつり****①モラルの高いまつり**

まつりの質の向上、安全で安心なまつりを目指すには、「モラルの高いまつり」であることが必要です。例えば、踊り連の飲酒の制限や、踊りの衣装は風紀を乱さない範囲にすることもひとつの方法です。こういった主催者の意図をルール化し、参加者に事前に十分伝え、それでもなお意図的にまつりを乱す者に対しては、毅然とした態度で臨む必要があります。ルールは明確な内容で整備し、早く周知させることが重要です。スポーツ競技などと同様、おいでんまつりも決められたルールの中で行うことで、参加する人、見る人、支える人すべてが感動できるまつりになると考えられます。モラルの高まりによって、過剰なルールのいらぬまつりとなることが期待されます。

②自己責任あるまつり

踊りだけでなく、まつり全体を楽しみものとするには、踊る人、見る人、運営する人などが、それぞれの行動に責任を持たなければなりません。他人任せで、自分だけが楽しいまつりにはしてはいけません。まつりに関わるすべての人が、まつりの創り手としての参画意識を持つことが重要です。そのためには、市民・事業者・行政の共働のまつりを早期に構築し、幅広い市民の手による企画・運営が実現される必要があります。

③公平で厳正な踊りの審査

おいでんまつりの魅力のひとつに、競う楽しさがあります。地域のまつりにおける踊り連の選抜や、中心市街地のまつりにおける、「おいでん大賞」などの審査は、公平で厳正な審査が求められます。

一方、過度の競技化は、華美で参加コストのかかるまつりの要因になりかねません。がんばったチームをみんなでたたえ、楽しい思い出づくりのための企画であるべきです。



(3) 環境にやさしいまつり

①住民生活への配慮

まつり会場周辺に暮らす人にも愛されるまつりでなければ、まつりの意義が達成できないばかりか、継続すら困難になります。踊る人、見る人の満足とともに、会場周辺住民の暮らしに十分配慮したまつり会場、開催時期や時間とする必要があります。

②クリーンキャンペーンの展開

「おいでんまつりを行うとまちがきれいになる」と言われるように、環境にやさしいまつりとすることが求められます。第39回のおいでんまつりでは「おいでんクリーンキャンペーン」を行い、踊り参加者による会場清掃やごみの散乱防止を徹底しました。今後も観客に対し、ごみを出さない、持ち帰る、分別するなどを呼びかけるとともに、販売事業者へも容器包装の回収を働きかけるなど、環境にやさしいまつりにしていく必要があります。



(1) 応援したくなるまつり**①協賛方法の検討**

おいでんまつりの安定的な発展のためには、資金はもとより、人材、場所、物などの安定的な資本が必要です。特に根幹となる資金確保のために、新しい協賛方法を検討する必要があります。協賛活動を推進し、行政負担に頼りすぎない、持続可能なまつりの開催に努める必要があります。

②まつりの魅力向上

協賛とは本来、趣旨に賛同して自主的に協力するものです。お付き合いや押し付け的な協賛金集めは長続きしませんし、見返りの期待につながることもあるので、改めていかなければなりません。協賛することが企業のステイタスとなる、すなわち「応援したくなる」ように、まつりの魅力を高めていかなければなりません。

③協賛範囲の拡大

現在は花火・印刷物・グッズ・各賞への協賛が中心となっていますが、踊りや花火会場の装飾物・案内看板や、スタッフユニフォームへの協賛スペース設定など幅広くメニュー化することが求められます。また、まつり会場に広告スペースを設け、販売するなどの発想も必要です。

④活発な協賛活動の推進

これまでの協賛依頼先は、過去の協賛実績に基づいた範囲に限られていたため、協賛額が縮小傾向にあります。市内には新しく進出した店舗や事業所も多く、新規協賛者を増やす活動を持続的に推進していくことが求められます。

(2) 子どもたちに受け継がれていくまつり

豊田市を代表するおいでんまつりがいつまでも継承されるように、子どもたちに受け継がれていく取り組みが重要です。子どもたちが「大人になっても参加したい」と感じるまつりは、誰からも愛され、将来に引き継がれていくはずで、リトルおいでんだけでなく、小学生や中学生も参加しやすい工夫をしたり、子どもたちが安全に楽しめるまつりづくりが必要です。

(3) 市民の自慢となるまつり

市内各地域で開催されるまつりを「わが地域のまつり」として、おいでんまつりを「わがまちのまつり」として、市民が内外に自慢できるよう魅力の向上に努めなければなりません。まつりの質、モラル、安全性などを高め、その魅力を全国に情報発信し、注目を集めることが重要です。そのために工夫を凝らした効果的なPRに努める必要があります。

おわりに

豊田おいでんまつりが、豊田まつりからスタイルを一新して20年目を迎えます。都市の熟成や人々のまつりへのニーズの変化、合併によるエリアの拡大などのさまざまな変化を踏まえ、第40回以降のおいでんまつりのあるべき姿を議論してきました。

「豊田おいでんまつりへの提言」は、おいでんまつりの改革のための提案であると同時に、長い歴史の中で積み上げられてきたおいでんまつりの魅力を、改めて確認する報告書でもあります。

新しいおいでんまつりが定着するには、市民・事業者・行政の意識改革も必要であり、それにはかなりの時間と労力を要すると考えられますが、目指すまつりの姿に向かって、着実に歩を進めていかなければなりません。

この提案書が、おいでんまつりをよりよいものにしていこうとする人々のわずかばかりの指針になれば幸いです。

なお、本懇談会の研究・審議の過程でお世話になった各位に、この紙面を借りて心よりお礼申し上げます。

豊田おいでんまつり懇談会委員一同